



## 美人詩抄

赤井

獄男

抱五絃

白居易

清歌且に唱ふるを能めたり

紅袂亦た舞ふを停めたり

趙叟は五絃を抱て宛轉

とて胸に當て撫び、大

聲は危にして殺の如く鳴

々なる風雨に和す、小聲

轉じては猿の啼苦となる

十指に定音無く宮徵羽

を細くして絶へんと欲し

切々として鬼神語る、又

鵠の喜びを報するが如く

行客此の聲を聞て足を

駐めて舉ぐる能はず、嗟

々俗人の耳今を好んで古

を好まず、所以に綠窓の

音歌既に能んで紅袂亦た舞

ひを收む。趙叟唯だ一人五

絃を抱いて彈む、大聲は粗

にして優の如く又たゞ

疾風の強雨に和すに似

似て居る、颯々切々大小相

とするが如く切々として鬼

神の私語するを開くが如く

或は鵠の喜びを報するにも

細々と屏開きて窓ゆみる野は雪昏れて灯影遠しも

さざめきの集ひも何故かもの寂し外の面に寒く雪

の降れば

の身終らな

樂しも

に思はゆ

の降りつもる深雪が下へ朽ちなましたに消らに此

の身終らな

は恐る是れ同郷ならん事

君が家住は何れの處ぞ。

妻が家は横塘に在り、船

を置く所以である

君家住

君が住

は恐る是れ同郷ならん事

君が家住は何れの處ぞ。

妻が家は横塘に在り、船

を置く所以である

君家住

# 縣下十萬の賛成を得

二十五歳

禁止法案

積年の努力が報いられそう

## 泉下に莞爾たる桐谷文平氏

(二)

号

一

四

千

三

年

六

和

昭

一

月

十三

日

年

一

九

月

三十

日

午

前

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時

九

時